

2019年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
 (新学習指導要領に向けた実践研究)
 成果報告書 (概要)

受託団体名
熊本県教育委員会

1 指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
熊本県	特別支援	知的障害	くまもとけんりつくまもとしえんがっこう 熊本県立熊本支援学校
熊本県	特別支援	知的障害	くまもとけんりつあらしえんがっこう 熊本県立荒尾支援学校
熊本県	特別支援	知的障害	くまもとけんりつきくちしえんがっこう 熊本県立菊池支援学校

2. 事業の実績

(1) 事業の実施日程

実施時期	実施内容	評価事項
平成31年4月24日	第1回研究指定校打合会 (熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校)	特別支援教育課と研究指定校である熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校の3校で、今年度の実践研究充実事業の取組の方向性について共通理解を図った。「実践研究充実事業の最終報告会 (以下、最終報告会)」での報告内容について協議するほか、新学習指導要領「小・中学部各教科内容表」作成の進捗状況について確認及び表記等の統一を図ることができた。
令和元年5月29日	第2回研究指定校打合会及び第1回実務担当者会 (熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校)	課題1「育てたい資質・能力の基本的な考え方について」、課題2「各教科内容表の活用について」それぞれに実務担当者を決め、それぞれの内容について具体的な検討を行った。打合会では、研究紀要、育てたい資質・能力、各教科内容表の確認、評価例について、各教科内容表の活用計画、各校での公開授業研究会についての協議及び情報共有を行うことができた。
令和元年7月12日	校内研修「授業研究会」 (熊本支援学校)	講師に福岡教育大学の一木薫教授を招き、主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりについて授業研究会を行った。教科等の指導における3観点での評価を適切に行うための評価規準の考え方や整理の仕方、自立活動の目標設定

		について専門性が高めることができた。
令和元年7月17日	第3回研究指定校打合会及び第2回実務担当者会（熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校）	課題1「育てたい資質・能力の基本的な考え方について」、課題2「各教科内容表の活用について」についての実務担当者会で、さらに具体的な検討、情報共有を行った。打合会では、最終報告会のリーフレット、一次案内、研究紀要、各教科内容表最終確認、日本特殊教育学会についての情報共有及び協議を行った。
令和元年7月30日	第3回実務担当者会（熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校）	課題1「育てたい資質・能力の基本的な考え方について」、課題2「各教科内容表の活用について」の内容を実務担当者で協議した。各校で捉え方の違いがある部分を情報交換しながら、整理することができた。
令和元年8月23日	講師招聘校内研修会「教科指導に関する講演会」（菊池支援学校）	講師に福岡教育大学一木薫教授を招き、「多様な実態に即した授業づくり」というテーマで御講演いただいた。教科指導、自立活動、目標設定（同単元異目標）、カリキュラム・マネジメントについて、分かりやすく具体的な内容を学ぶことができた。
令和元年8月21日	一人一単元研究報告会（荒尾支援学校）	前期の授業についてまとめた単元研究ポスターをもとに校内でポスターセッションを行い、評価や授業の手立てについて協議を深めることができた。
令和元年9月22日	日本特殊教育学会の自主シンポジウムでの発表	熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校の「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践からつながるカリキュラム・マネジメントについて研究成果を報告することができた。
令和元年10月7日	第4回研究指定校打合会（熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校）	最終報告会に向けて、二次案内原稿確認、研究紀要読み合わせ、最終報告会運営計画、日本特殊教育学会報告について協議及び情報共有を行った。更に最終報告会における3校の実践発表内容についての確認事項の情報共有を図った。
令和元年10月18日	ひのくに高等支援学校公開研究発表会	高等部におけるキャリア教育を繋げる授業「自立活動」の導入について、チェックリストの活用、グループでの学習についての実践、組織づくり（自立活動検討小委員会やアドバイザー）等、自立活動の指導の充実を図る上で参考となることを学ぶことができた。
令和元年11月1日	九州地区特別支援教育連盟研究大会鹿児島大	鹿児島養護学校における生活単元学習の授業参観及び生活単元学習分科会による授業研究会に

	会	参加した。菊池支援学校の取組として「育てたい力」をもとにした3観点の目標設定や個に応じた目標、手だて等について提案した。合わせた指導における教科の目標を考慮した授業づくりが評価された。各県の参加者からの関心も高く、三校合同研究の内容にもつながる学びを得ることができた。
令和元年11月20日	第5回研究指定校打合会（熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校）	研究紀要読み合わせ、各校の実践発表資料確認を行った。また、最終報告会に向けて、各校準備の進捗状況についての確認、意見交換、情報共有を行うことができた。
令和元年12月20日	第6回研究指定校打合会（熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校）	最終報告会に向けて、研究紀要最終読み合わせ、各校準備の進捗状況確認、意見交換、情報共有を行った。また、各校授業研究会についての報告を行い、最終報告会における実践発表についても最終確認を行った。
令和元年12月13日	公開授業研究会（菊池支援学校）	校内研究における授業研究及びカリキュラム・マネジメントの取組を紹介する機会として、各学部の代表研究授業を公開し、授業研究会を行った。授業研究会では、高等部助言者として熊本大学菊池哲平准教授、中学部助言者として熊本大学本吉大介准教授、小学部助言者として県立教育センター徳永英明指導主事を招き、各学部の国語科の授業改善についての指導助言を受け、各学部の取組についての成果と課題について確認し、今後の授業づくりの方向性についての示唆をいただいた。
令和元年12月14日	公開授業研究会（荒尾支援学校）	公開授業、単元研究ポスター発表を行い、参加者と意見交換を行い、本校の取組について協議を深めることができた。講師に西九州大学古川勝也教授を招き、公開授業及び単元研究ポスター発表、カリキュラム・マネジメントの取組についての御助言及び御講演をいただいた。
令和2年1月17日	第7回研究指定校打合会（熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校）	研究指定校3校の最終報告会に向けた準備状況の報告と最終報告会前日の準備や当日の係等、細かな動きについて共通理解を図ることができた。
令和2年1月25日	3校合同研究「最終報告会」（熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学	知的障害特別支援学校のカリキュラム・マネジメントに関する研究について、研究指定校3校がそれぞれの実践について報告することができ

	校)	た。福岡大学教育学部一木薫教授を講師として招き、知的障害特別支援学校のカリキュラム・マネジメントの充実について理解を深めることができた。また、参加者と研究内容やそれぞれの実践について活発な意見交換をすることができた。
令和2年1月30日	松橋東支援学校公開ポスター発表会	自立活動の指導における適切な目標及び具体的な指導内容の設定のプロセスを踏まえた授業実践の充実と評価のあり方について、その目標や意義についてしっかり理解しておく必要があり、複数の目で授業を見合うことの大切さ、担任や担当だけでなく、チームで取り組むことで客観的な評価につなげる大切さを学ぶことができた。
令和2年2月6日～7日	筑波大学附属桐が丘特別支援学校研究報告会	教科の本質を踏まえた指導を実現するために『各教科の「見方・考え方」を働かせる』ことに視点を置いて研究を進められていた。教科担当同士で、見方・考え方の共通認識することの大切さを学ぶことができた。
令和2年2月7日	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校 研究報告会	児童生徒の学ぶ姿を基に、教育課程を評価・改善できる仕組みを3つのPDCAサイクル（教育課程、授業づくり、授業実践）から整理し、研究を進められていた。それぞれのサイクルが組織的、持続的に実施できるように、各様式等の工夫や教師一人一人が主体的にカリキュラム・マネジメントに取り組むための組織作りについて学ぶことができた。
令和2年2月15日	第21回自立活動フォーラム in 長崎	学習指導要領解説で示されている「自立活動の具体的な指導内容を設定する手続き」に沿って実践をされた事例の発表と、参加者によるグループ協議が行われた。実態に応じた自立活動の指導内容の設定についての流れを確認するとともに、個別の指導計画の作成や検討方法・時期等、各校の自立活動に関する様々な取組を学ぶことができた。
令和2年2月15日	熊本大学附属特別支援学校研究発表会	文部科学省中村調査官の講演において、新学習指導要領を活用についての話があった。その内容を踏まえた上で授業づくりを行うことが重要であり、内容を熟知し、児童生徒が「何ができるようになるか」を考え、新学習指導要領を「学

		びの履歴」として活用することの重要性について学ぶことができた。
令和2年2月19日	第8回研究指定校打合せ（熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校）	1月に実施した「最終報告会」についての評価を行った。参加者アンケート及び関係者アンケートを参考にし、成果と課題を確認した。また、次年度からの研究成果の普及方法について検討を行った。

(2) 研究課題

学習評価を指導計画につなぐ教育課程の構造化と各教科内容表の活用によるカリキュラム・マネジメントの充実

(3) 研究の概要

本研究では、教育課程編成を進める校内組織や手続き、年間計画等を整理することにより、知的障害のある児童生徒に各教科等を計画的に指導できるようにすることを目指したカリキュラム・マネジメントを進めた。

さらに、教科別の指導と各教科等を合わせた指導を効果的に組み合わせるなどして「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を実施した。この目的を達成するために、今年度は主に以下の内容に取り組んだ。

ア 県内各特別支援学校の教育課程改善を進める校内組織や手続き、年間計画等の整理を通して児童生徒の学習評価を指導計画及び教育課程の改善に結びつける構造化を図り、カリキュラム・マネジメントを進めた。

イ 各教科等の内容を計画的に指導する指導計画の作成及び指導に当たり、必要に応じて学習指導要領を参照できるよう、各教科の目標・内容の全体像を捉えられる資料を作成し、指導目標及び評価規準設定に活用した。

ウ 各教科等の教育の内容毎に授業時数を配当した教育課程に沿って、教科別の指導と各教科等を合わせた指導を適切に組み合わせる等しながら、題材や単元全体で「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を図り、事例研究を深めた。

(4) 研究の成果

ア 学習評価をカリキュラム・マネジメントにつなぐポイントとして、授業評価を年間指導計画の評価・修正に生かす道筋を示し、教員間で授業評価・改善について協議する校内研究の機会を毎月設定するなど、共通理解及び教員一人一人のカリキュラム・マネジメントに参画する意識をさらに高めることができた。また、研究の積み重ねにより、学習指導要領が示す内容と児童生徒の実態を踏まえた、根拠のある教育の実践が深化した。

イ 学校教育目標の実現に向けて授業の充実を図っていく中で、児童生徒の実態把握、既習の内容の確認、在籍期間を見通した指導計画の作成に各教科内容表を活用した。また、各教科内容表を基に学習履歴を可視化して、確認を容易にすることもできた。加えて、各教科内容表を参照することで、特別支援学校学習指導要領の各教科の目標及び内容を、教育課程編成と指導計画作成の中心におくことができた。全教科を一覧で見ることが、各教科間のつながりに対する意識が高ま

り、各教科等の指導の充実につながった。

ウ 各校の学習指導案の様式を改善し、各教科内容表とのつながりを明確にした。様式は各校で異なるが、共通した取組として各教科内容表を活用した指導目標の設定や三本の柱に沿った評価規準を設定し、個人評価の蓄積をしたことで、三本の柱を意識した授業実践を展開することができた。また、展開案の中に主体的・対話的で深い学びの観点での指導の工夫と、育成を目指す各教科等の資質・能力を明記することで、授業の展開の中で学習過程が明確になり、日々の授業実践を充実させることができた。

(5) 課題と今後の方策

ア 学校教育目標や目指す児童生徒像、各学部の教育目標の実現を目指して各教科等の内容を計画的に学ぶことができるよう「育てたい資質・能力（各校で呼称は異なる）」を育むという視点からの子供たちの変容や、小学部から高等部卒業までを見通した指導内容の系統性を整理する必要がある。今後は、年間指導計画や単元配列表を活用しながら指導内容の系統性を整理する。また研究成果を年度が変わっても確実に引継ぎ、教育基盤を継承していく。

イ 各教科内容表を基にしたアセスメントを行う作業時間の確保や、それに基づく目標設定の妥当性の検証が必要である。年間行事にアセスメント実施日を設定し、授業者グループ毎に、アセスメント結果や各単元における個別の評価に取り組む。

ウ 学習のめあてに照らして学習成果を振り返る意識の向上、授業の計画や検討をスムーズに行うための会議及び検討方法の工夫が必要である。目標に基づいた児童生徒による相互評価や自己評価を行うなど、学びが深まる授業展開の工夫を行ったり、学習評価を活用したり、特に児童生徒の「思考力・判断力・表現力等」を高めていくための授業を検討するにあたっての学習評価のデータを蓄積したりしていく。

エ 今後、各校におけるカリキュラム・マネジメントを確実に進めていくため、個々の教員が授業改善のPDCAサイクルを確実に遂行できる状況整備が必要である。教員個人が授業・教材研究、授業反省等に当たるための時間確保に向け、今回見出されたカリキュラム・マネジメントの仕組みやツールを生かし、指導計画作成から評価までを効率的に行えるような共通フォーマットの作成とシステム化等に取り組む。